「聯」目次と解題(一)

和田博文*

要旨

一九三八年に佐藤一英は聯詩社を結成して、月刊リーフレットを創刊した。「聯」というこのリーフレットは、以後数年にわたって刊行されている。本稿にはそのうち、一九三八年四月から一九四〇年七月までの目次を記載した。詳しくは《解題》を書いたので、そちらを参照していただきたい。

《解　題》

新定型詩誌を標榜する、「聯」創刊準備リーフレットが出たのは、一九三八年四月。発行所の聯詩社は、東京市豊島区長崎仲町一ノ二五一九、佐藤一英方におかれていた。編集は佐藤を中心にして、東京の同人が行っている。同年四月二〇日の同人数は七五人。彼らは社費月額一円をおさめ、毎月聯一篇以上を発表する権利と義務を持っていた。他に社友もいて、月額五〇銭を払うかわりに、投書することができた。

聯とは何か。創刊準備リーフレットに掲載された、マニフェスト的性格をもつ「聯による詩作をすすむ」のなかで、佐藤一英はこう述べている。「聯とは西洋詩で言ふ聯の観念を日本の最小の詩型のうちに要約したものである」と。また次のようにも記した。「聯とは、伝統の日本詩歌がつねに據りどころとしてきた十二音句を、最も合理的な最小の構成形態としたものである」と。

創刊準備リーフレットには、十六人の作品が発表されている。そのうちの一篇である保永貞夫「火の雲」を例に引こう。

海へ伸び指は悩めり
美しさ日々に褪せゆく
奪ひ取れ沖の火の雲
動く手は焼けて失せたり

一読して分かるように、一篇は四行、一行は十二音で構成され、頭韻を踏んでいる。厳密にいえばこの作品の十二音は五七に分けられ、頭韻はAAAAの並列韻になっている。ただ前者は七五、六六、八四、四八、四四四なども考えられ、後者はABAB、ABBA、AABBなども可能だろう。いずれにせよ西欧のスタンザ（連）を想起させる四行詩で、各行を十二音で構成し、頭韻で行を結合するというのが、聯の基本的な詩作法であったといえる。

佐藤一英がこの形式を試みたのは、これが初めてではない。一九三五年に小山書店から刊行された『新韻律詩抄』が、彼の実験の最初の

平成6年9月23日受理　*国文学研究室

集成だった。保永貞夫「韻律・体験・思想二」（「韻律」一九六八・九）は、「佐藤一英は福士音数律論を継承し、修正し、発展させながら、一方、その探求・実験によって独自の韻律論をうちたて」たと指摘している。作品で効果を確かめながら、彼は理論化を深めていったのである。

一九三〇年に『日本音数律論』をまとめた福士幸次郎は、三八年七月に開かれた聯詩社第五回例会に、講師として招かれ、音数律の話をしている。「聯」誌上でも、一戸玲太郎や坂野草史、斎藤光次郎や三村達麿らが、聯の韻律について論じた。岩野泡鳴や福士幸次郎の仕事を受けての、佐藤自身の理論的探求は、一九四〇年に『新韻律詩論』としてまとめられることになる。

聯の共同詩としての可能性も、誌上で模索された。二人～四人で聯座を催し、それぞれが書いた各行を組み合わせ、一篇の聯を制作したのである。

玻璃　玉露　頬紅　マッチ（鳥羽）
浜茄子　帆　砂　アンブレラ（一英）
ハヒフヘホ　子供の声す（鳥羽）
葉鶏頭　夕陽　カアテン（一英）

鳥羽茂「聯の座」（第一巻第二号）に引用された作品である。鳥羽と佐藤が交互に言葉を紡いだこの四行詩は、一行十二音、頭韻を踏むという原則を守っている。ただ合作の可能性の考え方には、個人差があった。「フランスの前衛画家達の間に行はれてゐるやうなコラアジュの方法が、聯の場合にも採用され得る」と、鳥羽は述べている。ボン書店社主として、レスプリ・ヌーボーの展開に関わった、彼らしい見解といえよう。

佐藤一英は聯を、国民詩運動として展開しようとした。そのため同人内部だけに閉じないよう、いろいろと配慮している。外部の文学者から、聯について短いコメントをもらい掲載したのは、その一例だろう。いくつか抜き出しておく。

聯ハ日本詩歌ノ伝統精神ヲ最モヨク生カシタ新詩デアル（佐藤春夫）
聯ハ行間ニ意味ヲ持ツ詩ダ（三好達治）
聯デ、シユール・レアリズムノ詩モデキル（山中散生）
聯ハ意味ガヨイ、音ガヨイ、文字ガヨイ。三ツ揃ツテヨイカラ成功スルニ違ヒナイ（横光利一）
聯。僕も仲間入りする（室生犀星）。

聯詩社は同人の例会だけではなく、公開大会も開いた。一九三九年五月には、「聯詩講演と朗読の会」を城西仏教会館で開催。ここには外部の文学者も招かれ、横光利一の「雑感」、富澤有為男の「言葉の使命」などの講演が行われた。さらに翌年三月からは「聯」を、「新国民詩運動機関誌」として位置づけ、三カ条の「宣言」を表紙に掲げている。「我等は国民悉皆が詩の饗宴に列するは『聯』をおいて他になきことを確信す」という文章がそこには含まれている。

なお今回の目次掲載範囲で、一巻六号（一九三八年十一月）と、二巻四号（一九三九年四月）は確認できなかった。また一巻一号が存在した可能性もある。揃いでないにもかかわらず、本稿をまとめたのは、二つ理由があった。一つは近代詩の韻律の考察にさいして、「聯」が避けて通れない重要性をもっているからである。もう一つは、この薄いリーフレットを揃いで見ることが、今後ともかなり困難と思えたからである。未確認分をお持ちの方がもしおられたら、ご連絡いただければありがたい。その時点で補うかたちにしたいと思う。本誌調査に

あたっては、佐藤一英のご子息、佐藤建さんに、いろいろとお世話になった。この場を借りてお礼申し上げたい。

《凡　例》

①総目次はタイトル・作者・頁数を記した。

②作者名は旧漢字を、そのほかは旧仮名・新漢字を、原則として用いている。明らかな誤植は訂正したが、作者名の異同はそのまま表記した。

③タイトルに総題と個別題がある場合は、共に記載した。タイトルがない作品は末尾に記した。

④発行所・住所・定価などは、変更がある場合などに限り、末尾に記した。

創刊準備リーフレット　昭和十三年四月二五日発行

聯による詩作をすすむ　佐藤　一英　1
春聯　坂野　草史　2
無題　由紀　燎二　2
春愁　中條　雅二　2
友逝きて　黒崎　時子　2
春暁に　一戸豊三君へ　高木　恭造　3
くづれ　外崎美智雄　3
浅春　島田　酌郎　3
人形に　福士　朝子　3
神の座　一戸玲太郎　4
流星　石橋　一貫　4
よきともの　黒崎　義介　4
火の雲　保永　貞夫　4

第一巻第二号　昭和十三年六月一日発行

うつし身　一戸玲太郎　2
栗の花　辻　汎吉　2
JULIA　杉本　駿彦　2
麦野　深谷なみき　2
埴輪　黒崎　義介　3
戦史門　大月　乃武　3
芽　外崎美智雄　3
秋風　牧　千代　3
永遠の鋼　鳥羽　茂　4
空によりて　石橋　一貫　4
軽羅　岩城　政治　4
無題　黒崎とき子　4
漣　坂野　草史　5
暮春　南方　克彦　5
市街　辻　汎吉　5
わかれ　小川　昇堂　5
冬の扉　岩城　政治　5
とほきひと　深谷なみき　5
聯とは何か　一戸玲太郎　6～7
聯の座　Y・R　8
あとがき　佐藤　一英　8

★「社友略規」「同人略規」を8頁に掲載。

★発行者は佐藤一英。

★発行所は聯詩社。東京市豊島区長崎仲町一ノ二五一九。

★非売品。

LAESPERO　保永　貞夫　5
春光　福士　朝子　5
母の碑　奥　榮一　6
望潮　瀬川　恭　6
獄門　由紀　燎二　6
故郷　高松　隆子　6
訪れ　中條　雅二　7
父の日　森　芳太　7
銘　泉　潤三　7
去りし人に　横山さよ子　7
暮春　高木　恭造　8
涙の賦　嶺　皖彦　8
流転　小川　昇堂　8
そのかみの　萩原みどり　8
はじめなる星　弓田　義文　9
星　大木　惇夫　9
友を偲びて　片野千江子　9
夜露の香　三木みさ子　9
聯の詩学　佐藤　一英　10
聯詩抄—よみがへり　佐藤　一英　11
—終りある時　佐藤　一英　11
—海　佐藤　一英　11
—内外　佐藤　一英　11
—断　佐藤　一英　11
—名　佐藤　一英　11
—千代田の堀に立ちて　佐藤　一英　11
—秋にありて　佐藤　一英　11
—菊　佐藤　一英　11
聯の座　鳥羽　茂　12
編輯後記　佐藤　12

★表題の文字は宍戸儀一。
★佐藤春夫・三好達治・山中散生・北原義雄・横光利一・人見東明・富澤有為男・奥榮一・伊福部隆彦・村野四郎・吉田一穂・臣永直道の、聯についての言葉を、1頁に掲載。
★編輯兼発行人佐藤一英。
★「社友略規」を12頁に記載。
★定価十銭。

第一巻第三号　昭和十三年七月一日発行

くらい庭　高木　恭造　2
倦怠（アンニュイ）　手市　典麦　2
指もて　保永　貞夫　2
雫　牧　千代　2
南風　中條　雅二　3
行手　外崎美智雄　3
2角形のパラソル　鳥羽　茂　3
父逝きぬ　深谷なみき　3
聯の詩学　佐藤　一英　4
めざめ　杉本　駿彦　5
夜陰　辻　汎吉　5
金色の鬼　森　芳太　5
子　萩原みどり　5
案馨　大木　惇夫　6
一時期　松山　亮介　6

水音　石橋　一貫　6
別れ　三木みさ子　6
新韻律の詩的構成美—聯の作詩法—　坂野　草史　7
初夜　南方　克彦　8
空　坂野　草史　8
夕音讃歌　瀬川　恭　8
青の洞門　福士　朝子　8
槌輪（づち）　黒崎　義介　9
業　由紀　燎二　9
比婆山　小川　昇堂　9
故里　横山さよ子　9
聯の座の人々—単信リーフを見て—　鳥羽　茂　10
花杏　嶺　皓彦　11
発喃（ほつな）　泉　潤三　11
春愁　武藤　辰男　11
よき人　片野千江子　11
笹の露　奥　榮一　12
あした　弓田　義文　12
座　佐藤　一英　12
春の日に　醍　善使　12
聯のコラージュ　Y・S　13
老　一戸玲太郎　14
落陽　大月　乃武　14
さつきあめ　黒崎とき子　14
大日　雨宮　好燕　14
聯詩抄—露—われを彫刻さむとする人に與へる　佐藤　一英　15
—きざし　佐藤　一英　15
—おくりもの　佐藤　一英　15
—裸　佐藤　一英　15
—なつの　佐藤　一英　15
—解説　佐藤　一英　15
—像　佐藤　一英　15
—はたて　佐藤　一英　15
編輯後記　佐藤　16

★春山行夫・大木惇夫・加藤憲治・一戸玲太郎・宍戸儀一・高木斐瑳雄・小林三季・坂野草史・大島博光の、聯についての言葉を、1頁に掲載。

★「弘前聯座の作品」「東京聯座の作品」を10頁に掲載。

★「社友略規」を16頁に掲載。

第一巻第四号　昭和十三年八月二八日発行

砂にて　大木　惇夫　2
憂愁　高橋玄一郎　2
行手　外崎美智雄　2
稲妻　佐々木　繁　2
立秋　中條　雅二　2
抒情詩　鳥羽　茂　2
孤影　松山　亮介　2
天　坂野　草史　2
微風　石橋　一貫　2
指　南江　治郎　3
皿　高木　恭造　3

山　黒崎　義介　3
雷　澤　榮一　3
神に対ふ　大月　信　3
倫　泉　潤三　3
春の卜筮　臣永　直道　3
つねならぬ宵　北澤　勝二　3
噂の発生　三村　達麿　3
蛙　手市　典麦　4
五月の詩　嶽　皖彦　4
父をおくる　由紀　燎二　4
ひるがほ　田邊　若男　4
ひかり　一戸玲太郎　4
蔭　長谷雄京二　4
第二の時―石川清一君に―　保永　貞夫　4
風　雨宮　好悉　4
石仏　小川　昇堂　4
聯―一戸玲太郎氏に―　杉本　駿彦　5
道　森村　鋒美　5
火山　辻　汎吉　5
海　瀬川　恭　5
初夏　斎藤光次郎　5
父をおもふ　中島　三冬　5
月かげ　奥　榮一　5
哨線　高木　榮次　5
蛮境　佐藤　一英　5
六月の山　黒崎　時子　6
煙る雨　三木みさ子　6
野辺送り　萩原みどり　6
憂ひ　牧　千代　6
妹　福士　朝子　6
聯　弘前聯座　6
聯　名古屋聯座　6
聯　書信合作　6
聯　書信合作　6
聯の詩学（4）　佐藤　一英　7
編輯後記　（無署名）　8

★堀口大学・南江治郎・風巻景次郎・室生犀星・石橋一貫・英美子・井筈香樹・金子白夢・三田澪人・竹内隆二・佐野義雄・月原橙一郎の、聯についての言葉を、1頁に掲載。

★「同人略記」を8頁に掲載。

★佐藤一英『われを咎めよ』の広告文を8頁に掲載。

第一巻第五号　昭和十三年十月一日発行

駅程　杉本　駿彦　2
鳥道玄路　小川　昇堂　2
月に触るゝ　大月　信　2
若い教師　手市　典麦　2
別れ　北澤　勝二　2
鉄　保永　貞夫　2
聯のＡＢＣ　斎藤光次郎　2～3
ことば　高木　恭造　3
息　石橋　一貫　3
街角　田邊　若男　3
dilemma　三村　達麿　3

早春点描　奥　榮一　3
峡の音　水上　章　3
無題　辻　汎吉　4
秋雨　雨宮　好熙　4
額にともす　大木　惇夫　4
お遊戯　鳥羽　茂　4
ひとをおくる　桑原　純二　4
嘆　澤　榮一　4
聯の形式　一戸玲太郎　4～5
隠り居　泉　潤三　5
秋の影　武藤　辰男　5
碑銘　外崎美智雄　5
電光　嶺　皖彦　5
晩禱　瀬田彌太郎　5
招くもの　一戸玲太郎　5
海辺風景　南江　治郎　6
惜春賦　中條　雅二　6
失題　下村　悦夫　6
聯　大阪聯座　6
聯　弘前聯座　6
聯　山梨聯座　6
聯の詩学（5）　佐藤　一英　6～7
九変（或は詩法）　佐藤　一英　7
閾　牧　千代　7
断ち難きもの　三木みさ子　7
乙女　中島　三冬　7
霧　高松　隆子　7
友　横山さよ子　7
編輯後記　（無署名）　8

★野口米次郎・梶浦正之・辻汎吉・斎藤光次郎・田中令三・百田宗治・近藤東・瀬川恭・佐藤良雄・多胡羊歯の、聯についての言葉を、1頁に掲載。

★佐藤一英『われを咎めよ』の広告を3頁に掲載。

★「同人略規」を8頁に掲載。

第一巻第七号　昭和十三年十二月一日発行

聯の詩学（7）　佐藤　一英　1
ふたゝび　保永　貞夫　2
貝光る夜　杉本　駿彦　2
月見草　三村　達層　2
影ある馬車　一戸玲太郎　2
小曲　犬飼　稔　2
おもだか　中條　雅二　2
夕べ　武藤　辰男　2
初冬　牧　千代　2
日本の美術家にあたへる　聯美術同人　2～3
鴉の窩　高木　恭造　3
温帯　長谷雄京二　3
秋の身　秋山　文生　3
のざらし　奥　榮一　3
独り　外崎美智雄　3
毒壺　嶺　皖彦　3
鋭心　大月　信　3
戦捷をきゝて　黒崎　時子　3

聯運動の一年　（無署名）　4

第二巻第一号　昭和十四年一月一日発行

聯の詩学（8）　佐藤　一英　1
鏡　三村　達麿　2
明眸　石橋　一貫　2
暮景　嶺　皖彦　2
一年　杉本　駿彦　2
いくさ神　高木　恭造　2
神霊　小川　昇堂　2
おきて　手市　典麦　2
伊勢にて　山崎　務　2
なりはひ　武藤　辰男　2
影刻家　高木　榮次　2
くれがた　辻　汎吉　2
日光町　由紀　燎二　2
二五九九年　聯詩社同人　2～3
鴉　田邊　若男　3
心火となれ　奥　榮一　3
霊日　瀬田彌太郎　3
星　水上　章　3
野　保永　貞夫　3
矛　外崎美智雄　3
苦杯に醒めて　大月　信　3
鳥　一戸玲太郎　3
蒼穹　雨宮　好彦　3
とし子　長谷雄京二　3

妻　泉　潤三　3
あめの日は　北澤　勝二　3
秋に　大木　惇夫　4
秋　三木みさ子　4
墓へ急ぐ夜　中島　三冬　4
初春　牧　千代　4
手毬　佐藤　一英　4
悔　横山さよ子　4
足音　萩原みどり　4
晩秋　福士　朝子　4
後記　佐藤　4

第二巻第二号　昭和十四年二月一日発行

聯の詩学（9）　佐藤　一英　1
子よ（その一）　田邊　若男　2
白菊の門　一戸玲太郎　2
死をも　奥　榮一　2
聯　杉本　駿彦　2
冬日　坂野　草史　2
僧房秘唱　泉　潤三　2
雨の夜に　中島　三冬　2
原にて　保永　貞夫　2
まつり　鵜井　麻琴　2
恋　横山さよ子　2
燐火　三村　達麿　2
かなしみ　桑原　純二　2
ことば　高木　恭造　2

呪　手市　典麦　2
古き友　福士　朝子　2
水　辻　晉堂　2
想念　武藤　辰男　3
いのち　下村　悦夫　3
野にて　黒崎　時子　3
無題　蕗谷　虎男　3
たそがれ　島　淑子　3
怪心　小川　昇堂　3
別れしひとに　嶺　皖彦　3
耽視　田尻　宗夫　3
聯　鳥羽　茂　3
冬日　松木　嘉之　3
恋　長谷雄京二　3
炎　石橋　一貫　3
雪の座　外崎美智雄　3
出征　牧　千代　3
別れの酒　北澤　勝二　3
終りの街　佐藤　一英　3
聯の座の人々　鳥羽　茂　4
編輯後記　佐藤　4

第二巻第三号　昭和十四年三月一日発行

聯の詩学（10）　佐藤　一英　1
聯　鳥羽　茂　2
乖離　坂野　草史　2
渡津海　島　淑子　2

国旗頌　嶺　皖彦　2
白い空　保永　貞夫　2
影より　桑原　純二　2
想ひ出　武藤　辰男　2
聯　杉本　駿彦　2
無題　蕗谷　虎男　2
梅の実　北澤　勝二　2
春意　松木　嘉之　2
有情　小川　昇堂　2
潮　長谷雄京二　2
戒律　大月　信　2
逝く年　牧　千代　2
群鳥　石橋　一貫　2
影　鴉井　麻琴　3
運命　田尻　完夫　3
歌　高木　恭造　3
くちなし　奥　榮一　3
我に　外崎美智雄　3
逆政　泉　潤三　3
春の午後　福士　朝子　3
性　手市　典麦　3
澄みたるひと　一戸玲太郎　3
帰省　萩原みどり　3
子よ（その二）　田邊　若男　3
過去　三木みさ子　3
湯立　三村　達麿　3
朽ちし想ひ　雨宮　好慈　4

別離の夜　横山さよ子　3
戸　佐藤　一英　3
聯詩社例会の記　奥　榮一　4
十号記　佐藤　4

第二巻第五号　昭和十四年五月一日発行

聯の詩学（12）　佐藤　一英　1
聯　書信合作　1
聯　東京聯座　1
聯　東京聯座　1
聯　名古屋聯座　1
聯　東京聯座　1
聯　三戸聯座　1
聯　東京聯座　1
聯　弘前聯座　1
山梔子　奥　榮一　2
寝章　本田　茂光　2
旅にて　高木斐瑳雄　2
微熱　嶺　皖彦　2
聯　鴉井　麻琴　2
早春の墓地　北支にて　高木　榮次　2
聯　島羽　茂　2
追憶　福士　朝子　2
山房　小川　昇堂　2
生　武藤　辰男　2
聯　路谷　虎男　2
牧神の午後　手市　典麦　2
聯　佐藤　無迹　2
早春　深谷なみき　2
聯　長谷雄京二　2
酸素の泥濘（ぬかるみ）　保永　貞夫　2
頌　高木　恭造　3
独房…夏　由紀　燎二　3
丘　島　淑子　3
旅人　外崎美智雄　3
よみがへり　三村　達麿　3
離心　武井　安子　3
機微　下村　悦夫　3
露路　田邊　若男　3
救ひ　松木　嘉之　3
幼き者　高松　隆子　3
にはひ　瀬田彌太郎　3
声　石橋　一貫　3
木　一戸玲太郎　3
あぢさい　桑原　純二　3
写真に寄せて　犬飼　稔　3
再生　佐藤　一英　3
聯詩運動雑記　佐藤　4

★聯詩社第三回例会の案内を4頁に記載。
★聯詩講演と朗読の会の案内を4頁に記載。

第二巻第六号　昭和十四年六月一日発行

聯の詩学（13）　佐藤　一英　1
聯　東京聯座　1

聯　東京聯座　1
聯　東京聯座　1
聯　東京聯座　1
聯　東京聯座　1
聯　弘前聯座　1
聯　弘前聯座　1
聯　三戸聯座　1
子　長谷雄京二　2
聯　杉本　駿彦　2
独神　鴉井　麻琴　2
墳墓　本田　茂光　2
フリージヤ　松木　嘉之　2
赤城の山　深谷なみき　2
夜の海　島崎　美恵　2
冬　武井　安子　2
聯詩講演朗読大会の記　蕗谷　虎男　2～3
夜の海　澤　榮一　3
石炭の花　三村　達麿　3
無涯　保永　貞夫　3
昼の月　島　淑子　3
唄　すぎた昨日は春であった　一戸玲太郎　3
燕　高木　恭三　3
青葉　田邊　若男　3
戦線にある弟に寄す　宮林　幹也　3
聯詩運動雑記　林　信一　3
（無署名）　4

★発行所住所が、東京市豊島区長崎町三ノ二〇ノ一に変更。

第二巻第七号　昭和十四年七月一日発行

聯の詩学（14）　佐藤　一英　1
新生　澤　榮一　1
生命の歌　島　淑子　1
幸　三村　達麿　1
怒り　由紀　燎二　1
郷愁　金子　泉　1
夕月　黒崎　時子　1
流れぬ涙　宮林　幹也　1
火薬　保永　貞夫　1
哀歌―父七十五齢の終る―　竹内　隆二　2
年　秋山　文生　2
春宵　嶺　皖彦　2
時を白く　鴉井　麻琴　2
頌　高木　恭造　2
釣師　野田　為次　2
海　武井　安子　2
地震　田邊　若男　2
師の旅　長谷雄京二　2
友　高松　隆子　2
はるめく　小川　昇堂　2
挽歌　雨宮　好悉　2
聯　鳥羽　茂　2
潮　石橋　一貫　2
小鳥のゆめ　島崎美恵子　2
夜を吐く　一戸玲太郎　2
春信　林　信一　3

魂魄の章　手市　典麦　3
古き家　福士　朝子　3
小岩　武藤　辰夫　3
飢　外崎美智雄　3
ふるさと　奥　榮一　3
追憶　戸田　勇人　3
聯　蕗谷　虎男　3
風景　下村　悦夫　3
墳墓　本田　茂光　3
汚なき男　辻　晋堂　3
足音　松木　嘉之　3
聯　杉本　駿彦　3
暁　桑原　純二　3
青いインク　深谷なみき　3
天の秤　佐藤　一英　3
聯詩運動雑記　（無署名）　4
★聯詩社第五回例会の案内を4頁に記載。

第二巻第八号　昭和十四年八月一日発行

聯の詩学（15）　佐藤　一英　1
唄（ヴェルレエヌ）　高木　恭造　1
唄（マラルメ）　高木　恭造　1
唄（ノワイユ夫人）　高木　恭造　1
唄（ロオランサン）　高木　恭造　1
新生　長谷雄京二　1
対座　長谷雄京二　1
ふるさと　長谷雄京二　1
献詩　長谷雄京二　1
強く　斎藤光次郎　2
○　武藤　辰男　2
菊花　下村　悦夫　2
ひとしづくすら　松木　嘉之　2
悶絶　穐家　悦一　2
芭蕉　宮林　幹也　2
憂―トヨ子に―　本田　茂光　2
赤い風車　福士　朝子　2
日　秋山　文生　2
青柳　奥　榮一　2
雲の流るる　石橋　一貫　2
一景　懶　皖彦　2
聯　蕗谷　虎男　2
朝　手市　典麦　2
希望　武井　安子　2
石炭のうた　保永　貞夫　2
石　田邊　若男　3
還兵　高木　榮次　3
秋怨　川上　愛子　3
答　川上　水夫　3
蝸牛のうた　祖父江　渡　3
聯　島崎　美恵　3
哀しき性　大月　信　3
乙女　深谷なみき　3
そがひに　鴉井　麻琴　3
聯　杉本　駿彦　3

無題　緒方　良二　3
氷雨　三村　達麿　3
霜　一戸玲太郎　3
低き花　島　淑子　3
暁光　小川　昇堂　3
TSを呼ぶ　佐藤　一英　3
「鴉の窩」に就いて　三村　達麿　4
編輯余録　佐藤　4

第二巻第九号　昭和十四年九月一日発行

聯の詩学（16）　佐藤　一英　1
神話　鴉井　麻琴　1
○　鴉井　麻琴　1
○　鴉井　麻琴　1
○　鴉井　麻琴　1
聯四題　島　淑子　1
○　島　淑子　1
○　島　淑子　1
○　島　淑子　1
近況　長谷雄京二　2
行手　三村　達麿　2
汐　武藤　辰男　2
幼時　大月　信　2
征旅　本田　茂光　2
凝心　下村　悦夫　2
夕月　田邊　若男　2
秋夜　深谷なみき　2
サンタ・マリア　奥　榮一　2
無辺　福士　朝子　2
蕪村　宮林　乾也　2
棚江戦　由紀　燎二　2
聯　杉本　駿彦　2
聯　島崎　美惠　2
霧の街　松木　嘉之　2
壁　一戸玲太郎　2
火の中にて　澤　榮一　3
かるく　斎藤光次郎　3
聯　蕗谷　虎男　3
生　川上　水夫　3
夢　野田　為次　3
絶望　穏家　悦一　3
シャボン玉　嶺　皖彦　3
北　保永　貞夫　3
唄（アポリネエル）　高木　恭造　3
朝　武井　安子　3
白夢　石橋　一貫　3
寒山寺　小川　昇堂　3
夏日小景　手市　典麦　3
長浜にて　川上　愛子　3
秋祭　緒方　良二　3
しのありか　佐藤　一英　3
楯と剣　由紀　4
朗読研究会の記　島　4
余録　佐藤　4

第二巻第十号　昭和十四年十月一日発行
聯の詩学（17）　佐藤　一英　1
花の章　一戸玲太郎　1
二　一戸玲太郎　1
三　一戸玲太郎　1
四　一戸玲太郎　1
五　一戸玲太郎　1
六　一戸玲太郎　1
七　一戸玲太郎　1
八　一戸玲太郎　1
獄窓…秋　由紀　燎二　2
故郷風景　長谷雄京二　2
一茶　宮林　幹也　2
幹　高木　恭造　2
聯　鴉井　麻琴　2
心むなしく　大月　信　2
雨夜　石橋　一貫　2
上野駅　武藤　辰夫　2
極日　島　淑子　2
章　川上　水夫　2
ふもと　武井　安子　2
或る季節　保永　貞夫　2
「遠い海風」について　大江　満雄　2～3
求婚広告　斎藤光次郎　3
祇園社　小川　昇堂　3
青春　下村　悦夫　3
晩鐘（ミレーの絵に）　川上　愛子　3
同じ扉―故鳥羽茂氏へ―　松木　嘉之　3
子と五月　田邊　若男　3
清秋　嶺　皖彦　3
妹に　福士　朝子　3
漂流　隅家　悦一　3
若さ　雨宮　好慈　3
○　路谷　虎男　3
反省　金子　泉　3
「的歴集」その他　島　淑子　4
二千六百年の為に　（無署名）　4
聯的散歩　（無署名）　4
ジャーナリズム　保永　貞夫　4
私記　佐藤　4

第二巻第十一号　昭和十四年十一月一日発行
聯の詩学（18）　佐藤　一英　1
始め終り　保永　貞夫　1
涙　保永　貞夫　1
秋の恋　宮林　幹也　1
秋の僕に　宮林　幹也　1
秋・自嘲　宮林　幹也　1
蝶と旅人　三村　達麿　1
そらだき　三村　達麿　1
高原の夜　三村　達麿　1
碑銘　高木　恭造　2
想故郷　下村　悦夫　2
独座　長谷雄京二　2

聯　島　淑子　2
墓　川上　水夫　2
立った立った　嶺　皖彦　2
東京駅　武藤　辰夫　2
雨の日の海　福士　朝子　2
季節　小川　昇堂　2
花　隠家　悦一　2
夏の愁ひ　大月　信　2
思ひ　武井　安子　2
告示　江越　馨　2
新しき回転　松木　嘉之　2
秋　鴉井　麻琴　2
からまつ　鴉井　麻琴　2
聯　一戸玲太郎　3
木　田邊　若男　3
小径　泉　潤三　3
故園の花（1）—壹の歌　本田　晴光　3
—貳の歌　本田　晴光　3
—參の歌　本田　晴光　3
—四の歌　本田　晴光　3
—五の歌　本田　晴光　3
—六の歌　本田　晴光　3
—七の歌　本田　晴光　3
—八の歌　本田　晴光　3
—九の歌　本田　晴光　3
—拾の歌　本田　晴光　3
—拾壹の歌　本田　晴光　3
—拾貳の歌　本田　晴光　3
「我を咎めよ」　福士幸次郎、Y・R　4

第二巻第十二号　昭和十四年十二月一日発行

聯の詩学（19）　佐藤　一英　1
燕　田邊　若男　1
虫　田邊　若男　1
松虫　田邊　若男　1
原　田邊　若男　1
夕凪　澤　榮一　1
あさ—秋　福士　朝子　1
ひる—秋　福士　朝子　1
よる—秋　福士　朝子　1
鬱悶　下村　悦夫　2
家　宮林　幹也　2
聯　島　淑子　2
柿若葉　三村　達麿　2
酔へる　長谷雄京二　2
昏れゆく街　大月　信　2
生きるとは　嶺　皖彦　2
星　江越　馨　2
美はしき卵　松木　嘉之　2
聯　武井　安子　2
いき　武藤　辰夫　2
秋　川上　水夫　2
氷雨　鴉井　麻琴　2

○　鴉井　麻琴　2
木　一戸玲太郎　2
しるし　一戸玲太郎　2
柩　泉　潤三　3
砂　保永　貞夫　3
水　小川　昇堂　3
故園の花（2）―拾参の歌　本田　晴光　3
―拾四の歌　本田　晴光　3
―拾五の歌　本田　晴光　3
―拾六の歌　本田　晴光　3
―拾七の歌　本田　晴光　3
―拾八の歌　本田　晴光　3
―拾九の歌　本田　晴光　3
―貳拾の歌　本田　晴光　3
―貳拾壹の歌　本田　晴光　3
―貳拾貳の歌　本田　晴光　3
―貳拾参の歌　本田　晴光　3
―貳拾四の歌　本田　晴光　3
第一回聯合作懐古談　瀬田彌太郎　4
音楽会記　島　淑子　4
後記　由紀　燎二　4
★佐藤一英『我を咎めよ』、『遠い海風』の広告を4頁に掲載。

第三巻第一号　昭和十五年一月一日発行

聯について　佐藤　一英　1
迷路　大月　信　2
○　一戸玲太郎　2
悔　三村　達麿　2
暦　高木　恭造　2
聯の作り方　三村　達麿　2～3
琅玕　杉本　駿彦　3
一夜　保永　貞夫　3
冥　坂野　草史　3
雲　島　淑子　3
聯運動　由紀　燎二　4

第三巻第二号　昭和十五年二月一日発行

聯の詩学（20）　佐藤　一英　1
戦夜　澤　榮一　2
仏一僧　泉　潤三　2
浅春　北澤　勝二　2
汝の足　島　淑子　2
骨片と花　高木　榮次　2
水　嶺　皖彦　2
塚　外崎美智雄　2
一人　丹阿彌富枝　2
詩と世界　吉田　一穂　2～3
斎はれて　一戸玲太郎　3
遊子吟　三村　達麿　3
影　武井　安子　3
響　隠家　悦一　3
通り雨　田邊　若男　3
金　田邊　若男　3
夜明け前　松木　嘉之　3

松露　佐藤　泰助　3
枕言葉に就いて　日本詩歌の一問題　宍戸　儀一　4
日本詩の韻律　一戸玲太郎　5～6
雲雀　宮林　幹弥　6
人訪ふ　長谷雄京二　6
静謐　大月　信　6
おもかげ　江越　馨　6
雪の日　高木　恭造　6
春愁　戸田　勇人　6
闇　小川　昇堂　6
性　手市　典麦　6
花と音　斎藤光次郎　6
○　路谷　虎男　6
浅春　斎藤三子夫　6
眼想　熊田　力雄　6
鞭　鴉井　麻琴　7
鳥　福士　朝子　7
春　島崎美恵子　7
夢　高松　隆子　7
戦線　高芝　三居　7
くちなし　高橋　利子　7
淫売婦　緒方　良二　7
逝きし姉に　森　日出子　7
むなしさ　中島　三冬　7
うれひ　桑原　純二　7
想ひ出　小林　伊佐　7
月見草　宮原千代子　7
聯詩美女伝（一）　師走の縁日　業平　朝臣　7
編輯後記　澤、由紀　8

★「雑誌部確立に就いて」「編輯部より」「社友募集」を8頁に掲載。
★雑誌部事務所を、東京市豊島区池袋三ノ一五六一初音荘、由紀燎二方に設置。

第三巻第三号　昭和十五年三月一日発行
ちぎり　三村　達麿　1
夏陽　路谷　虎男　1
知るや　斎藤光次郎　1
僧房秘唱　泉　潤三　1
うたびと　澤　榮一　1
母の夢　隠家　悦一　1
窓　若葉　嶺　皖彦　1
性　魂魄の章　手市　典麦　1
春四篇　北澤　勝二　1
×　北澤　勝二　1
×　北澤　勝二　1
×　北澤　勝二　1
招く者　島　淑子　2
はる　深谷なみき　2
或る朝に　丹阿彌富枝　2
あすへの光　武井　安子　2
韻律の闇（一）　佐藤　一英　2～3
わびしさ　江越　馨　3
抒情　長谷雄京二　3
さけ　斎藤三子夫　3

暗黒　由紀　燎二　3
編輯後記　由紀　4

★誌名横の「新定型詩誌」を、この号から「新国民詩運動機関誌」と改める。

★「宣言」を1頁に掲載。

★「六月号作品コンクール」の予告、「編輯部より」「社友募集」を4頁に記載。

第三巻第四号　昭和十五年四月一日発行

蹂けられた星　吉田　一穂　1
Floro　保永　貞夫　2
Suno　保永　貞夫　2
Chie　保永　貞夫　2
○　一戸玲太郎　2
韻律の間（二）　佐藤　一英　2～3
秘聞　大月　信　3
雲　島　淑子　3
秋　島　淑子　3
聯城の宿　高木　榮次　3
いとなみ　松木　嘉之　4
一塊の肉　松木　嘉之　4
寝　松木　嘉之　4
知らざる国　松木　嘉之　4
あこがれ　嶺　皖彦　4
方言　嶺　皖彦　4
祈り　手市　典麦　4
飛騨路にて　長谷雄京二　4
聯詩構成の一方法　杉本駿彦　4～5
体刑　隠家　悦一　5
如月　錦　米次郎　5
灰色の影　熊田　力雄　5
ほ　蕗谷　虎男　5
時劫　戸田　勇人　5
つどひ　丹阿彌富枝　5
庭　武井　安子　5
桜　島崎美恵子　5
日本語と詩型―音楽世界座談会より　佐藤一英、大木惇夫、辰野隆、千葉勉、颯田琴次　6～7
生活の歌―人の子　田邊　若男　7
―凧　田邊　若男　7
―生活　田邊　若男　7
―蓑虫　田邊　若男　7
編輯後記　由紀　8

★「宣言」を1頁に記載。

★佐藤一英『我を咎めよ』の広告を3頁に掲載。

★「聯六月号作品コンクール」の予告、「社友募集」、「聯詩講演と朗読の会」の予定を、8頁に掲載。

第三巻第五号　昭和十五年五月一日発行

聯の詩学（21）　佐藤　一英　1
生命　澤　榮一　2
陽・死・火（4）　保永　貞夫　2
○（5）　保永　貞夫　2
島　淑子　2

詩と行動　宍戸　儀一　2～3
春の月　田邊　若男　3
病院にて　山崎千杜矛　3
瞳　松木　嘉之　3
碑　松木　嘉之　3
○　錦　米次郎　4
○　錦　米次郎　4
冬日　嶺　皖彦　4
薄紅梅　嶺　皖彦　4
LEBEN　緒方　良二　4
果汁　江越　馨　4
○　長谷雄京二　4
○　長谷雄京二　4
詩の新分野（1）―詩の朗読に就いて―　勝　承夫　4～5
春路　佐藤　泰助　5
孤独　熊田　力雄　5
あかね雲　戸田　勇人　5
黒き土　丹阿彌富枝　5
きさらぎ　深谷なみき　5
春に　本間つま子　5
静　福士　朝子　5
○　福士　朝子　5
麦踏歌　奥　榮一　6
薄氷の宿　奥　榮一　6
風　武井　安子　6
○　武井　安子　6
聯を語る―佐藤一英氏を囲んで　佐藤一英、田邊若男、澤榮一、島淑子、保永貞夫、緒方良二、由紀燎二、福士朝子　6～7
逍遙集　湯谷　蕊　7
天　由紀　燎二　7
朱　由紀　燎二　7
私記　佐藤　8
後記　由紀　8
★「宣言」を1頁に記載。
★「社友募集」を8頁に掲載。

第三巻第六号　昭和十五年六月一日発行

田邊若男朗読―聖戦　犬飼　稔　2
―山登り　武井　安子　2
―聯　杉本　駿彦　2
―柩　泉　潤三　2
―サンタ・マリア　奥　榮一　2
―遣音　瀬田彌太郎　2
―日当　佐藤　一英　2
三村達麿自作朗読　相聞歌　三村　達麿　2
―ちぎり　三村　達麿　2
―房　三村　達麿　2
―孔雀　三村　達麿　2
―虹　三村　達麿　2
―ゆき　三村　達麿　2
―幸　三村　達麿　2
由紀燎二朗読―聯　鳥羽　茂　2
―方言　嶺　皖彦　2

—時　由紀　燎二　2
—強く　斎藤光次郎　3
—きさらぎ　深谷なみき　3
—大和路　佐藤　一英　3

澤榮一自作朗読
—海辺にて　澤　榮一　3
—○　澤　榮一　3
—○　澤　榮一　3
—○　澤　榮一　3

北澤勝二朗読—おなじ扉　松木　嘉之　3
—多恨　北澤　勝二　3
—裸　佐藤　一英　3
—憂愁　高橋玄一郎　3

島淑子朗読　—市街　辻　汎吉　3
—FLORO　保永　貞夫　3
—海　佐藤　一英　3
—空　島　淑子　3

丹阿彌谷津子朗読
—思ひ　武井　安子　3
—みのむし　田邊　若男　4
—雨の日の海　福士　朝子　4
—或る朝　丹阿彌富枝　4

福士朝子朗読—あこがれ　嶺　皖彦　4
—唄　高木　恭造　4
—蝸牛のうた　祖父江　渡　4
—聯　杉本　駿彦　4
—赤い風車　福士　朝子　4

後記　由紀　4

★誌名の横に「六月大会版」「第二回聯詩講演と朗読の会」と記載。
★吉松フランス語学校の広告を1頁に記載。
★「社友募集」を4頁に掲載。

第三巻第七号　昭和十五年七月一日発行

聯の詩学（22）　佐藤　一英　1
陽・死・火（6）　保永　貞夫　2
（7）　保永　貞夫　2
小春日　三村　達曆　2
胎動　三村　達曆　2
聯　長谷雄京二　2
○　長谷雄京二　2
○　長谷雄京二　2
○　長谷雄京二　2
暮春　北澤　勝二　2
非情　北澤　勝二　2
多恨　北澤　勝二　2
端午　北澤　勝二　2

詩の新分野（2）—詩の朗読について—　勝　承夫　2〜7

早春の歌—小径　田邊　若男　3
—さけび　田邊　若男　3
—薇　田邊　若男　3
—雑木原　田邊　若男　3
—日だまりの影　田邊　若男　3
—夕つぐる鳥　田邊　若男　3

—羽音さびしく　田邊　若男　3
—ふるさと　田邊　若男　3
神話　山崎千杜矛　3
○　山崎千杜矛　3
○　山崎千杜矛　3
○　山崎千杜矛　3
荻の章—一　一戸玲太郎　4
—二　一戸玲太郎　4
—三　一戸玲太郎　4
遠き空—一　島　淑子　4
—二　島　淑子　4
—○　島　淑子　4
空　島　淑子　4
水深き花　島　淑子　4
日の御楯　伊福部隆彦　4
屋上にて　武井　安子　4
墓　武井　安子　4
車窓　丹阿彌谷津子　4
海辺にて　澤　榮一　5
○　澤　榮一　5
○　澤　榮一　5
○　澤　榮一　5
○　澤　榮一　5
風　松木　嘉之　5
夢　松木　嘉之　5
瞳　松木　嘉之　5
謎　松木　嘉之　5
朝　丹阿彌富枝　5
沈丁花　丹阿彌富枝　5
虹の想ひ　二渡　信子　5
苦境　隠家　悦一　6
流れ　隠家　悦一　6
狼　江越　馨　6
スケッチ　江越　馨　6
みぞれ　戸田　勇人　6
ぼたん雪　戸田　勇人　6
霜害　斎藤三子夫　6
○　斎藤三子夫　6
聯　福士　朝子　6
はる　福士　朝子　6
はつ夏　大野満津子　6
ある人に　大野満津子　6
わたくしのれんじやう
—ゑくぼ　皖彦　7
—ひとみ　皖彦　7
—ゆび　皖彦　7
—みみたぶ　皖彦　7
—くろかみ　皖彦　7
—ちぶさ　皖彦　7
—すあし　皖彦　7
—くちびる　皖彦　7
—うなじ　皖彦　7
—うしろすがた　皖彦　7
聯　錦　米次郎　7

聊　本間つま子
れん　由紀　8　7

★「宣言」を1頁に掲載。
★佐藤一英『新韻律詩論』の広告を7頁に掲載。
★「受贈図書雑誌」「社友募集」を8頁に掲載。
★社友の錦米次郎が同人に推薦される。

A general table of contents and the explanatory notes of *Ren*

Hirofumi WADA

Summary

Sato Ichiei organized Ren-shi-sha and started a monthly leaflet "*Ren*" in 1938. This leaflet continued for several years. In this article I reprinted the table of contents from April 1938 to July 1940. See the explanatory notes for further details.